

ピーシーエー生命保険株式会社

統一的な保険契約管理システム構築に向け Windows 2000からSystem iへ移行

- POINT**
- アジア地区統一の保険契約管理システムを導入
 - Pandora-AX採用で新たな電子帳票システムを構築
 - 今後はマルチプラットフォーム環境の電子帳票を統合

COMPANY PROFILE

設立：1990年
本社：東京都港区
資本金：425億円
保有契約高：4336億円（2008年5月末）
従業員数：175名（2008年5月末）
<http://www.pcalife.co.jp/>



広瀬繁雄氏

IT部
アプリケーション
サポートグループ
ヘッド マネジャー



神田宏志氏

アプリケーション
サポートグループ
スペシャリスト



林田 宏氏

社内開発グループ
リーダー



仁和博樹氏

社内開発グループ
システムエンジニア

統一システム導入に向け WindowsからSystem iへ

ピーシーエー生命保険は、160年の歴史を持つ世界有数の金融サービスグループ、英国プルーデンシャルグループの一員である。

同グループは、世界中で2000万人以上の顧客に、生命保険、損害保険、年金、投資信託や投資顧問等の総合的な金融サービスを提供しており、2008年6月末時点での運用資産は2560億ポンド（約54兆円）。

ピーシーエー生命保険はその一員として、医療保険や変額個人年金保険を中心に、国内で事業を拡大してきた。2007年度は、新契約年換算保険料98億7700万円と前年度比213.9%、保有契約全体での年換算保険料も239億5100万円と前年度比155.3%の業績を達成している。

そうした業務の中核を支える保険契約管理システムは、2004年に再構築されたWindows 2000上のシステムで運用されてきた。しかし英国プルーデンシャルグループは2005年、香港をはじめ中国・タイ・韓国などアジア各地区のリージョナルオフィスで、System i上で稼働する同一の保険契約管理システムに統一する方針を決定。

それに伴い、各国のリージョナルオフィスはそれまで運用していた独自の保険契約管理システムをSystem iへ移行するプロジェクトを開始したのである（システムは英国で開発され、各国が必要に応じてカスタマイズを実施）。

ピーシーエー生命保険もこの方針に従い、2008年7月に「System i 525」を導入。医療保険とガン保険の2つの新商品を皮切りに、契約管理業務のSystem iへの移行を開始した。

「今後は2年程度をめどに、当社が扱う全保険商品の管理を、現在のWindows 2000からSystem iへ段階的に移行する計画です」と語るのは、広瀬繁雄マネジャー（IT部 アプリケーションサポートグループヘッド）である。

System iの導入に際しては、3社のベンダーから提案を受けたが、最終的にはコストと保守・運用の信頼性を評価して2007年6月にベル・データの提案を採用した。2重化体制構築のため、2台の525を導入し、HAソリューションとして「no*MAX」（マキシマム・アベイラビリティ）を採用。2つの新商品が発売される2008年夏を本稼働目標に据え、導入・移行作業が進められた（本番系525はベル・データのデータセンターに委託している）。

さらに新・保険契約管理システムの稼働と同時に、新たな電子帳票システムとして「Pandora-AX」(NTTデータビジネスブレインズ)の運用もスタートした。

Pandora-AX導入で 新たな電子帳票システム構築

電子帳票は、Windows 2000上で保険契約管理システムを運用していた時代から利用していたが、System iへの移行に伴って、新たな電子帳票ソリューションの導入が必要になった。

同社が電子帳票化の要件として掲げたのは、以下の3点である。

1点めは、プラットフォームの制約がないことである。

「当社にはSystem i以外にも、UNIXサーバーやWindowsサーバーなど、業務を支援する多種多様なサーバーを導入しています。将来的には全サーバー上で出力される帳票を同一システム上で電子化し、統合管理する計画であるため、導入する電子帳票ソリューションは、特定のプラットフォームに制約されないことが望ましいと考えました」(IT部 アプリケーションサポート

グループ スペシャリスト 神田宏志氏)

2点めは、ユーザーごとにきめ細かくアクセス権が設定でき、アクセスの証跡を管理できるなどセキュリティ機能を備えること。これは内部統制対策上も、今後は欠かせないセキュリティ要件になる。そして3点めは帳票設計ツールである「SVF」(ウイングアークテクノロジー)との親和性が高いことである。

「今回の移行を契機に、帳票の見やすさや使い勝手を高めるため、SVFを導入して、帳票の再設計に取り組んでいます。今後はUNIXサーバーやWindowsサーバー上で利用する帳票も順次、SVFで設計していく方針です。そのためSVFとスムーズに連携し、設計した帳票データを制約なく取り込める点が、電子帳票ソリューションの要件として重要でした」(社内開発グループ システムエンジニア 仁和博樹氏)

数社の製品を検討した結果、上記の要件をクリアするソリューションとして、Pandora-AXの採用が決定した(同時アクセスライセンスとして35ユーザー分を導入)。

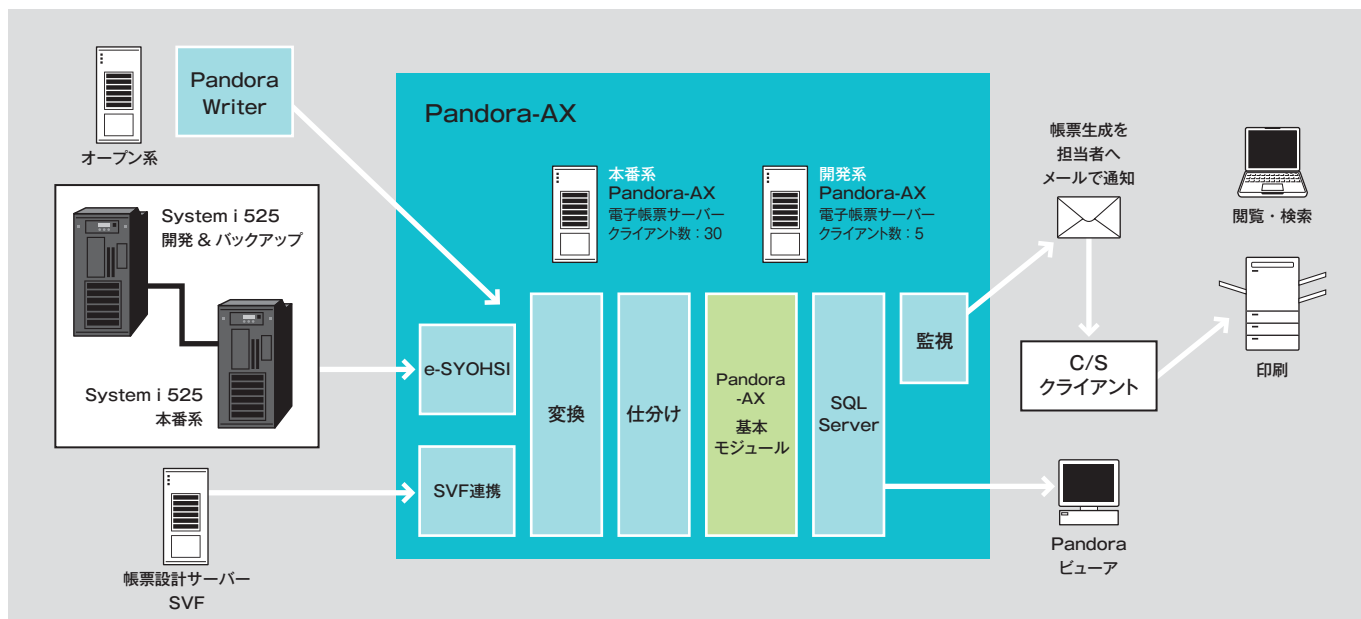
現在は、新規契約リストや請求対象

リスト、入金結果一覧など主に社内の業務管理で必要とされる20~30種類の帳票が、Pandora-AX上で電子化されている。多くはSystem iのスパールファイルをそのまま電子化しているが、当初の狙い通りSVFの帳票データも一部、取り込んでいるようだ。

「電子帳票は以前から利用していましたが、Pandora-AXの導入後は、帳票の種類が増えたことに加え、ユーザーごとにアクセス権を設定するなど、全体的によりきめ細かな運用が実現しています」(社内開発グループ リーダー 林田宏氏)

2008年は、System iの導入および帳票設計ツールや電子帳票ソリューションの一新など、今後に向けたIT基盤の整備が完了した年であると言える。2009年は、Windows 2000からの対象業務の移行を急ぐ計画だ。

現在は以前利用していた電子帳票ソリューションと並行稼働しているが、保険管理業務でWindows 2000からSystem iへの移行の度合いが進むにつれ、Pandora-AXでの管理対象も一層広がることになりそうだ。①



図表 ビーシーイー生命保険のシステム概要

※ 本記事は、i Magazine 9号に掲載されたものです
(C)2009 アイマガジン株式会社 www.imagazine.co.jp